

平成31年度 一般選抜（後期日程）

## 小 論 文 問 題

注意事項
------

- 1 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙を開けてはいけません。
- 2 問題用紙・解答用紙の定められた欄に必ず受験番号と氏名を記入下さい。
- 3 問題用紙と解答用紙が別々になっています。表紙は切り離さずに解答下さい。
- 4 問題用紙は表紙を入れて2枚、解答用紙が1枚、下書き用紙が1枚あります。
- 5 解答時間は60分です。
- 6 解答は解答用紙に横書きに記入下さい。

受験番号		氏 名	
------	--	-----	--

問題 次の文章を読んで、あなたが感じ取ったことについて 775 字以内で論じなさい。

次に、あなたの論述に対して 25 字以内で表題をつけ、最初の 1 行目に記しなさい。

師範の石田和雄九段が、3 人の子どもを同時に指導している。「取った駒をすぐには使わないよ、もっと大事なときに使うの。お金と同じだよ」。石田の指導が実に上手い。子どもに次に何をすべきかヒントを与え、最後は勝つ方法を自分で見つけさせる。人気があるのも当然だ。3 人同時に相手しているが、終わるとすぐに次の子が座ってくる。石田は一人一人に声をかけていく。言葉をもらおうと、子どもはやる気が出るのだ。70 歳を超えた今でも“石田節”は健在だ。「強いんだよ、この子は。うーん、ヤンなっちゃうなあ」。往年の名解説を知っているファンは、思わずニンマリしてしまうだろう。

・・・(中略)・・・

奥の席では、この日はゲストで石田の弟子・佐々木勇氣六段が子どもたちの相手をしてきた。年に数回、指導に来ているそうだ。「僕も指したいよー」と、こちらもワンプクな男の子たちが続々と押し寄せる。女の子も、ちょこんと座っている。「これは君に勝ちがあるよ。見つけてごらん」。言われた子は、夢中になって盤をのぞき込む。佐々木も 3 人の相手をしながら、一人一人の手がどこに伸びるかを見ている。言葉は優しいが、顔は真剣だ。「子どもの指導は楽しいですよ。彼らからするとプロは憧れですけど、距離がありすぎてもいけない。もっと親しみが持てるようにしたいですね」。どんな競技でもそうだが、小さいときにプロと接し指導を受け接した経験はとてつもなく大きい。意識レベルを引き上げてくれるのだろう。

1 時間ほどその様子を見ながら、二人の体力に感心させられた。子どもを相手にするのは、大人以上に大変だ。指導だけでなく、飽きさせない工夫をしなければならないからだ。午前 9 時から 12 時まで、休むことなく対局を続ける。柏将棋センターは子どもたちの熱気に満ち溢れていた。

出典：野澤亘伸、『師弟 棋士たちの魂の伝承』，光文社，2018.